第３回 北部地区街づくり協議会　議事録	
開催日時	平成 28 年 11 月 21 日（月）18：30～20：30
開催場所	櫟本公民館　大会議室
出席委員	委員　16 名
欠席委員	山口委員、中西委員
事務局	総合政策課６名、産業振興課４名、生涯学習課１名

議事内容

１．開　会　－18：30－

２．市長挨拶

会　長

皆さまお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

街づくり協議会も第３回を数えることになりましたが、皆様には公民館まつりもあり大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

この新しい公民館が開設し、竣工式やてくてくてんりに合わせる形で手作りフェスタと続いていたわけですけれども、幅広いみなさまに活性化の拠点としても利用して頂ければと思っています。本日は、今後何をやっていくのかという具体の議論について、ご意見いただければと思っています。

３．議事録の承認

第２回協議会の議事録につき、異議なく承認された。

４．議　事

以下、議事進行は会長が進める。

（1）北部地区街づくり基本構想について

会　長

まちづくり基本構想についてですが、奈良県との間で市全体の総合的な包括協定はすでに結ばせてもらっています。高原と南部と天理駅周辺は基本構想というところについても結ばせていただいています。さらに個別具体のことをやっていく際に基本構想に中に載っているものについては奈良県も一緒になってやっていくという基礎になるものですので、そういったご理解のなかで、この部分に根っ子が今後に向けて入っているかどうかをご確認いただきたいと思います。

資料Ｐ１−１１を説明

・事務局より櫟本校区を中心とした北部地区まちづくり基本構想（案）の概要を説明

会　長

今の説明を受けてご意見等ありましたらお願いいたします。

ご意見等がないようですが、これから議事を進めて議論をしていただきますので、その中で思い浮かぶこともあると思いますので、議論の中で抜けているものが出てきたら入れていくという

形で進めていこうと思います。北部の活性化に向けた取組みについて、取組みのシートについて事務局説明お願いします。

資料Ｐ１２を説明

・事務局より北部の活性化に向けた取組みのシートの説明

会　長

平成29年度に書いてあるから平成30年度以降は続けないという趣旨ではありませんし、まず、こういった部分についてとっかかりを早くしていこうというものと中長期的課題として考えていくものとの整理をできたらと思います。皆様方の中でご関心も多様だと思いますので、これだけに縛られずご意見をいただければと思います。

委　員

現地ウォークの開催について今年は商工会の方でしていただきましたが、商工会の方に聞きたいのですが、昨年、今年と県の方から補助金が出てたと思いますが、この補助金は恒久的に続くものですか。

委　員

県の補助金は地域魅力づくり支援事業としていただいてまして、自己負担が1/3で2/3が県補助ということになっており、昨年と今年は 300 万の予算を組んでおり、商工会の持ち出しは100 万となってます。この補助金を北部活性化のプロジェクトにだけで使っていくのは厳しいものがあります。来年度はどうなるか予算としては厳しくなるかなと思っております。

委　員

産業振興課にお尋ねしたいのですが、商工会でやっている櫟旅に対して継続できないとなれば区長会として応援しないといけないと思っていますが、それに対する市からの補助は受けれますか。あと、てくてくてんりは櫟本駅から皆様降りていかれますけど、駅降りてすぐに観光案内板がありますが、剥げていて見えない。なんとか観光案内板を新しくしていただけたら降りた人も地図を見なくてもてくてくてんりは出来るのではないかと思います。予算が絡んでくると思いますが市の予算の関連をお聞きしたいと思います。

会　長

市としてウォーキングイベントでぐるぐる回っていただくことと地元の物販をしっかり繋げていくことは大事だと思っています。どういう形で予算を組めるかは内部で相談しようと思います。継続できるようには考えていきたいと思います。看板については一度持ち帰らせていただきます。そういったご指摘もたくさんあるかと思いますが、こういうことについてこの場で語り合いたいとか、こういう部分を重視してみんなに意見を聞きたいということがあればそちらもお伺いしたいと思います。

委　員

イベントとかをする時に人の集まるポイントですが、車と JR というものを考えていただけたらと思います。車だったら駐車場の問題がある。169 号線と西名阪もあるのでその辺りを合わせ

た何か取組みを考えていただくのと、JR だと本線が京都から天理まで伸びることができるのであれば人の流れも変わってくるのではないかということを感じてます。

委　員

皆さんが感じられている部分と自分自身が感じている部分に差があるかなというところにおいては、イベント関係は充実して櫟本町では出来上がってきて活性化の部分は出来てきていると思っています。最終的には奈良県の奈良、生駒、香芝は人口が増えてるんです。放っておいても色んなものができる場所になっている。２０代の子どもがやはり天理市、櫟本から出ていっているのが気になるところです。それで３年前に街づくりをやろうということで参加しましたが、私の中での最終地点というのは若い子が出て行かない、櫟本に根付いてもらおう、他からも一人でも一家族でも多く櫟本の地に住んでもらえる街づくりというのを考えています。そのためには今後、行政の力を借りないとできないことが出てくると思います。櫟本に若い人が住んでいただくことで商工がそこに繋がっていくのかなと思います。このまま 10 年、20 年先を見ますと、どんどん減ってしまうのかなという心配をしていますので、その部分を皆さんと強く会話していけたらと考えています。簡単に言えばハード面ということでお願いしたいと思います。

会　長

今お 2 人からご意見ありましたけども、他にご意見ありますでしょうか。

委　員

ウォークラリー等は櫟旅などを皆さんにやっていただいているので基礎的な部分は出来ていると思いますが、天理市の行政の上で「伝・山の辺の道」が櫟本で止まっている。櫟本だけで観光が途切れているので、本当の歴史というのは櫟本でしか伝わらない。私はそのように考えています。「伝・山の辺の道」になった経緯もお聞きしていますが、石上町、別所町、豊田町、豊井町でも、この道についてはっきりさせていくのが行政の仕事ではないかと思います。山の辺の道ってこのような道だったんだなということ、舗装された道ではない、山の辺の道の魅力があることを全国発信していくべきだと思います。

農業関係の方はいちごなど色々栽培されてますが、あと 10 年すれば耕作者が減っていくのは事実です。櫟本だけでなく天理市全体として問題ですのでどのように考えていくかということも必要だと思います。櫟本の活性化ということであれば先程も出ましたが、どこに駐車場を作るか、どこに集まれてゆっくりできる場所があるかという問題がある。単なる空き家対応ではなく空き家を行政側からバックアップしてやっていくとはっきりと態度を示す必要があるのではないかと思います。

会　長

一度整理してみますと、香芝、生駒、天理を比べると京阪神の通勤というところにおいてはどうしても変えがたいものがあります。地理的な要因として遠い。どのようにマイナスの部分をプラスに転じるかを皆さんにご議論いただいているかと思います。イベントは頑張っていただいてるというご指摘はその通りだと思いますし、校区のバックアップもしっかりしていただいている

と認識しています。これが何に影響するためにするイベントなのかというのを意識付けで整理するということだと思います。その中でいくつか論点がでてきましたが、周遊観光、通勤を考えるにしても交通面がもっと充実していないといけない。また、来た人が自分の車を停めていける場所があるのかどうか、それがないと周遊観光といっても繋がっていなかいだろうという意見だったと思います。

「伝・山の辺の道」も皆さんの中で周遊と言った時にルートが頭の中に共有されていなければ、何気なく回ってくださいとういことでも難しいというご指摘だったと思います。

また、都市計画的なことや地区計画のことなど地元に雇用を生むために行政も一緒に取り組んでいくような話も議論したいというニュアンスも含まれているのかと思います。

市としましては、雇用と交通関係と周遊観光は非常に大事だと思っています。周遊観光がなぜ大事かといいますと、地元にお金を落としてもらうことと櫟本により多くの人に来てもらうことにプラスして櫟本に住んでいる人自身が他の地域の人から見てもここは素敵だと思われているというようなことをしっかりと持っていただく、櫟旅にしても櫟本の産品を買っていただいて喜んでいただくことを通じて、遠いとか電車の本数が少ないといったネガティブな部分をどんどんここはいいなと思ってもらえる流れを作っていくことが大切だと考えています。とはいえ、その中で、抽象的な議論を繰り返しても前に進まないので、出来る範囲の中で何を皆でやっていくかということを議論できればと思っています。

大枠のところでこういう視点がこの街づくりには大事なんだというところを他にもご意見あればお願いします。

委　員

最近、子どもがすごい勢いで減ってきているのを肌に感じています。100 人単位で減っているイメージを持っています。どうやってここに人を留めつつ、新しい人を呼んでくるかというのは大事だと思います。各地域で取り組んでいると思いますが、地元の方の 20、30 代が出て行ってしまうというのが多い。後継者がいないということが起こっているのでそういう人たちを留めるのが大事だと思っています。田舎で仕事がないので外にでないと仕方がないというのもありますが、今はインターネットが繋がれば仕事ができるというのがあり、東吉野村でも外から人を呼んでそこで仕事ができるという取り組みを推進されています。やはり住んでいただかないと人も増えないし活性化もできないというのは皆さんの言う通りだなと思います。

委　員

この３年間若しくは 10 年、20 年前の櫟本の町別に子どもの数は分からないですか。各町の数字を見ていただいて感じてもらえたらいいのではないかと思います。

会　長

数字を拾うことは可能と思います。可視化することで見えてくることに対してどういうことを考えていく部分も大事だと思いますがいかがでしょうか。

委　員

農業の後継者がどうしても不足していて将来を心配しています。組合を立ち上げて 13 年になりますが、なかなか入ってくる人がいない。組合員はいてますが、作業に出てもらうことがなく、ほとんどが定年組状態です。今後が心配です。

委　員

人を集めるとなりますと、５万人収容のアリーナを建てる。ブラジル、スペイン、イギリスの選手の催しをすれば５万人来るというのが一つの目玉。なぜ目玉かというとスポーツの街天理と市長も仰っているので、国の色んな交付金を集めてでもやらないといけない。今までは天理教さんの持ち物で色んな催し物をやっているのが現状です。ここは一発勝負をその辺りまで考えてもらわないと活性化に何も繋がらないと思っています。農業が衰退していくということは、耕作放棄地が多くなるということを先に見ていないといけない。その辺りも皆さんの考え方ですけれども、潮時をどうするか、それによって今現在の櫟本の商工連盟の方々の商売もそこに付けていくというような発想をしないと良くならないと思います。

会　長

今言っていただいたのは、爆発的に吸引力のある何かを外から持ってくる必要があるのではないかということだと思います。もう一方で見てみればコンサートにいった人がそのすぐ隣に住みたいかというとこれは別の議論の部分になると思います。爆発的なものを引き寄せていって、それで周辺の産業を育てていくような視点があれば商工業も再生するのではないか。これも重要ですが、一方で農業や子どもを育てる点でいえばこの街で育てることがどういった付加価値があるのかというところを共有していかないと街を出ていく人が多いのではないかと思います。そこの部分に歴史、文化、農業を位置付けていくのかということで学校などと連携して取組んでいただいていると思います。農業については後ほど６次産業団地のことも市として考えていることがあるので紹介させていただきます。他にご意見ありますでしょうか。

委　員

住み続けたい街であるために、日常生活のどこに満足度を得るかの考え方だと思います。住んでいる櫟本の自分が街を好きでないと、満足しているという意思表示がないと外からは入ってこないと思います。生駒とか便利なところから比べると劣るところはあると思いますが、自然や住みやすさ、ここに住んでいる価値を周りの人に発信していきながら他の人がここに住みたいなということを分かってもらえるようにしたいと思います。

今まで出た意見をふまえて思ったことは、かつて櫟本校区は教育熱心な街だった。かつての先輩方はかなり優秀な方がたくさん出ている。どれだけ学力の高い地域なのかと驚いたことがあります。子育て世代の一つの希望としては校区全体の学力を上げることにも注目していきたいと思います。学力を上げていくことが街の活性化に繋がるように、子ども達を皆で育てていくプロジェクトをできたらと思います。小学校、中学校、公立高校を出て確かな学力を付けてあげるのが理想かなと思います。

委　員

学力が上がると良い大学を出て帰って来ない。今までも櫟本は学力が高かったから、皆さん東京へ行ってしまっている。

委　員

それはそうですが、どこに住むかを校区で選んでおられる。子育て世代も考えておられて、櫟本は費用的にも家も安いので、その辺りに力を入れてほしいと思います。

委　員

天理市の平均地価が高いのは天理教が関係しているところを除くと、櫟本は売らないから一番高い。

会　長

日常生活に価値をとおっしゃっていただきました。皆さんがここに住むことで価値観を共有する。そこに教育があるということと思います。昔は学力が高くて出て行った人もいるという指摘でしたが、今、都会に住んでいてしんどいという人、自分がゆとりを持って暮らしていける所にいきたいというアンケートをしたら結構数はいます。しかし、全員が移住している訳ではなく、雇用が継続されないとかどこに行ったら住めるのかという受け皿の部分で地方に戻りたい人を地方自身が受け止めきれていないところがあります。その中に今回、取組んでいくことがしっかり刺さるかどうか。天理で暮らすことの豊かさを発信するための映像も作っています。教育でいいますと、全国の中で奈良県はなかなか厳しいですが、奈良県の中でも天理は下の方です。それはなぜかということを見ていくと、学習する習慣が殆どついていないと思われる割合が一定数あって、偏差値６０以上の層が薄く下の部分が厚いので、公立学校としては底上げをしていこうとされています。櫟本小学校で色んな地域の方と交流する中で、図書館の整備などしてもらって、次の段階として放課後一緒に何か面倒をみようという議論まで来ていると認識しています。櫟本と言った時に旧村エリアと最近来られた方との想いが色々あるなかで、そこをどう繋がりをもっていけばいいのかということについて考えられる方はおられますか。

委　員

今、高品では白川台、赤土山が新興住宅地、そして旧村がありますが、高品には６６０軒の軒数がありますが、その内、旧村は２８０軒です。そして２４０軒が完全な新興で、櫟本の催しものには関与されていないので、人の交わりが全然ないのが現状です。それをどうするかということで、秋祭りの前日に高品としては子ども神輿を一度白川台の方へ持って行って、こんなことやってますよ、明日は秋祭りです、ご参加くださいというのをやっていこうとなりました。子ども会の参加も白川台はほとんど皆無に近いです。ただ、白川台、赤土山で１００人弱の小学生がいてる状態で、旧村は２０、３０人くらいなので来年から取り組んで行こうということになりました。

会　長

自治会としての付き合いはしても本当の意味で校区の行事に新興の皆さんが入れているかというと、難しい状況だというご指摘だったと思います。今まで、櫟本の土地にそんなに繋がりを

持ててない皆さんも取り込んでこれる状況が必要かと思います。

委　員

３年ほど前に南小路は２８世帯しかなく、運動会などに出ても競技で走ったりするのは大変なので、この競技はやめとこうとかいう話ばかりでしたが、その時に岸和田のだんじり祭りのように出て行っている子ども達も引っ張ってこようとなりました。そして、それを始めて今年で３回目になりました。１年目はちょっとぎくしゃくした雰囲気で２年目で少し柔らかくなって、今回で打ち解けたような感じで、５組くらい帰ってきてくれている。その時に４００ｍのリレーに南小路が出たと皆さん言ってくれた。遠いところから帰って来てもらおうと思うと、連休のところに祭りごとやイベントをもってきて帰って来てもらいたいという思いがあります。

会　長

蔵之庄町の祭りも神輿を担ぐために子どもさん達が帰って来ている。それをアルバイトに頼らずに成り立っている状況にあります。皆に帰ってきてもらうきっかけ作りが大事かなと思います。

委　員

子どもという観点から言うと、勉強のランクが低いというのは出ていますが、それは櫟本小学校の優秀な生徒が昔から私立に行っているのがあります。また、小学生のスポーツとしては野球とバスケットボールだけやっていて、サッカーもやっているかどうか見たことない状態です。これをＮＰＯ化するような形でして、その中に囲碁や将棋も含めたものを作り上げて、これを基礎ラインとして中学校で適正を見てそれなりのクラブに嵌めていくようなやり方をして櫟本から日本代表選手を出すような形のものを作っていく。その中には子ども達に見せるべき今の日本代表選手やプロ野球選手を呼んでくるような指導のやり方をたまにはするという形をとっていかないと夢は広がっていかない。物に頼ってるだけでなく人を活かさないといけない。

会　長

順番が変わってしまいますが、地域通貨について説明お願いします。

委　員

箕面市の地域通貨（まーぶ）について説明

委　員

実際、これをやられてる所に出会う機会があって、地域と子ども達、旧村と新興住宅との交わりを創出するには良いツールだと感じたので、話をしていたら近畿大学がされているということだったので詳しく説明していただきました。

会　長

最初に地域通貨が出てきた時は、地元に消費を繋ぎとめるという一辺倒だったところから今は地域のコミュニティをつくるためのツールとして活用されてきていると思います。ご質問などありますでしょうか。

委　員

櫟本小学校のコーディネーターをしていて、現在、櫟本小学校の図書館の開放をしていますが、今後目標としているのは放課後の塾のようなものを計画しています。やはり塾はお金がかかるので、そこをどうするかという時に子ども通貨が出てきました。子どもが地域と繋がって学ぶということで「マッチ」という通貨を櫟本小学校で発行してもらおうと思っています。はにわ祭で小学校６年生が各名所で名所の説明をしますが、それをした子たちに報酬として「１００マッチ」を渡し、放課後の塾を一時間を受けられる。自分で稼いだお金で学習するということを櫟本小学校で実験的にやっていこうと思っています。櫟本コミュニティ協議会でもまだ煮詰まっていませんが、校長先生が先生を５人程集めたプロジェクトチームも作るといっていただいています。今年度は２月中旬と３月初めの２回くらい放課後の塾をできたらと思っています。そこでマッチを使えたらと思っています。

ソフト、ハードも大事ですが一番大事なのは地域の櫟本の地区を担っていく次世代の子ども、孫を育てないと本当の活性化にならないのではないかと考えています。私が小さい時は地域のおじさん、おばさんに怒られながら育ってきました。そういう経験をしてきたので地域に育ててもらったとすごく感じています。大人になった時に地域に貢献したいなという気持ちがすごく湧いてくる。子ども達がこの櫟本地区を好きでないと地域は活性化していかないのではないのかと思っています。櫟本地区に住んでる方がこの街を良くしたいと思わない限りどれだけハードやソフトを充実しても発展しない。基本は地域住民の意識だと思います。住んでいる方々の意識の向上が必要でないかと思います。そこにハード、ソフトがあって街が活性化していくと思います。

委　員

子どもを育てるには、スポーツとかを通じて子育てをしていければという話がありましたが、指導者の問題があって、良い指導者なら子どもも付いていく。地域に良い指導者に来てもらうということも考えていくことも必要だと思います。

会　長

今まで来てもらったことのない人に来てもらうということなどを語り合ってもらって、子ども達が呼びたいとなって地域通貨などと組み合わせていけるのではないでしょうか。

委　員

今の取組みは小学校だけでされるのですか。

委　員

そうです。今は放課後学習塾を受けるためを考えていますが、本当はもっと広げた形にしていって、子どもが地域で色んな仕事やボランティアをしたときにマッチをもらえて校区で使えたらと思っています。

委　員

一番身近なところで実験的にやってあり方を見た上で、今後、これを発展的に櫟本校区で地域通貨をツールとして使いたい。使い方は無限に広がっていくけれども、それを受け入れる団体を考えないといけない。箕面市はＮＰＯ法人を設立されて、そこから動かれている。北部地区とし

て主体をどこで受けるのか、今後議論していかないといけないと思います。

会　長

櫟本校区の民生委員さんからも高齢者同士の支え合いのシステムで似たような形で考えられないかという提案をもらったことがある。受け入れの体制作りが課題ということでまだ具体的には動けていません。

今日提案いただいたマッチについて、作業部会を立ち上げてチームに委ねて、その皆さんが色んな方と議論して進めるための準備をしていく。それを協議会で共有し応援していく。

今後の協議会の進め方について、マッチの議論だけで協議会が終わってしまいますし、大人数ですると話が進まない部分もあると思います。最初に出てきた皆さんの問題意識と繋がっている要素が多いのではないかと思います。次回は２月に開催する予定ですが、今後の進め方として、全体的な櫟本の根本的な課題について議論をぶつける場としての時間、それぞれが取り組んでいることが課題に合っているのかを議論していただく時間、そして具体的にこれをやろうということを最後に議論する３部構成にしてはどうかと思います。

地域通貨を通じて子どもたちや高齢者の方とか色んな課題に向き合っていく仕掛けづくりのご提案をいただきました。今、積極的に考えていただいている近藤委員と森田委員を主として実行部隊を作っていくのはいかがでしょうか

委　員

区長会にも話を通してもらわないといけないと思います。

会　長

区長会への説明の場をもらって進めていくことでいかがでしょうか。

近藤委員と森田委員をリーダーとしてメンバーを集めて進捗を区長さんへ報告し進めていく。そして、どのような形でやっていくということを協議会でも議論していければと思います。

最初のセッションの大きな論点についてはまだ欠けてるのではないかと思います。基本構想については奈良県との間で早く結びたいと考えております。協議会の場がなければ構想にあることが進んでいかない訳ではありませんし、個々にも進んでいきつつあるものもあります。それらがバラバラにならないようにこの場は意識を合わせる場としたい。マッチが動いてくれば、それが関係してくる事業が色々出てくると思います。

公民館の活用については、今までと違う使い方で地域が繋がっていく場所になるよう各団体で情報を共有して使っていっていただきたいです。

もう一つ、市の方で考えております６次産業団地の計画があります。これは地域に雇用を作っていく部分とこのままいくと農業が櫟本で立ち行かなくなるのではないかという中で出てきました。今は区長さんや農業関係者に説明した段階です。市全体の中でこのような農業生産と加工と流通が出来る場所はどこなのかということを検討を進めた結果、一番可能性があるのが名阪、京奈和に近い櫟本という回答が返ってきました。早く進めて欲しいなどの声も多く、今営農されている方の問題意識も強い。市としては根本的課題についても考えはじめているということをこ

の場で情報共有させていただきます。

次回は基本構想に関するご意見はそれまでに伺っておいて、課題の整理についても話をし、今動いていることで特に皆さんが他の方の力を借りたいですとか、これをもっとこんな風に進めて行ったらいいのではないかとか、地域通貨についてもしっかり進めていただきたいと思います。

委　員

近畿大学の薬学部の多賀先生からまこも茶の成分分析がでてきました。簡単にいうとオリゴ糖がでた。膀胱炎に効く成分もでた。飲み方としては水出しが美味しいとのことです。

会　長

マコモタケはそのままでもフェスタで完売でしたし、非常に可能性があるということで、地元で作っていただいたものが加工にもなる。売れていくという姿を可視化していくことで櫟本にもそういうものがあるということを共有することも大事だと思っております。県のブランディングで北田源七商店さんが作っておられるお茶に関しては全国の中川政七商店で並んで売っています。そこに和爾という言葉が入った状態で売っています。そういった商品を増やしていければと思います。櫟本で行事をやるとみんながまこも茶を飲んでいるというくらい盛り上げていければと思います。

本日は長時間ありがとうございました。

５．閉　会　－20：30－